

牛久：学校周辺に見る自然

第53号 中根小、牛久自然観察の森

2011年1月31日発行

<冬の校庭観察～昆虫の冬越し その1>

1/27(木)、中根小4年生の皆さんとの「校庭の生き物たちの冬越し」観察の続き。今回は昆虫たちの冬越しのようすを紹介しましょう。昆虫たちも、寒く乾燥した冬を乗り越えるためにいろいろな工夫をしています。

①卵で冬越し

今年の観察では校庭にカマキリの卵のうが見つかりませんでしたので、下の駐車場で



↑ オオカマキリの卵のう



↑ クスノキの葉にガの卵

見つけたオオカマキリの卵のうを載せます(左)。右はクスノキの葉にうみつけられたガの卵(名前は分かりません)。このカプセルの中で、じっと春を待つのですね。

②幼虫で冬越し



↑ 幹と色も質も同じシャクトリムシ

どこにいるか、こうして見ると分かりますが、パッと見ただけではなかなか見つかりません。シャクトリムシ(シャクガ科の幼虫)です。木の枝のようにじっと動かないことで、エネルギーの消費を抑えているのですね。

右の写真は、何度か



登場しているヨコヅナサシガメ。サクラの害虫ですが、冬の間、幼虫は集団でかたまって寒さをしのいでいます。同じようにかたまって風をよけている？お友だちもいましたね。

幼虫の中には、まゆをつくって、その中で冬を過

↑ 集団でかたまるヨコヅナサシガメ

すものもいます。よく見かけるのは、ミノムシの仲間でしょう。木の幹や枝にとけこんで、これもパッと見ただけでは分かりませんね。皆さんも探すのに苦労していました。中には多くの場合ミノガの仲間の幼虫がいますが、大部分の仲間では、メスは成虫になっても一生ミノの中で生活するそうです。隣の写真は、幼虫がササなどを食べるタケカレハというガのまゆ。黒い点は幼虫の毒針にあたる部分だそうで、手で触らないようにしましょう。最後の写



↑ ミノムシ



↑ これもミノムシ



↑ タケカレハのまゆ

真はウスタビガの鮮やかな黄緑のきれいなまゆですが、すでに羽化して空のまゆです。

(タケカレハとウスタビガは牛久自然観察の森)

【理科支援員
・宮内】



↑ ウスタビガの空まゆ